

市民と行政 協働のまちづくり

市自治会連合会 「市政懇談会」



自治会長に説明する倉光市長

11月14日、市自治会連合会（白戸英行会長）主催の「市政懇談会」が旧制木造中学校講堂で開催されました。自治会長ら約50人がよりよいまちづくりに向けて倉光市長や市の幹部職員と意見を交わしました。

懇談会に先立ち、倉光市長は「一人でも多くの市民がここで暮らして良かったと思えるような施策を展開していきたい。各自治会で困っていることや実施してほしいことをはじめ、さまざまなアイデアを出していただきたい」とあいさつ。続けて、市長特別講話では、本市にとって1丁目1番地である農業をテーマに、8月の大雨の被害状況や支援策の内容、スマート農業の取り組み、市の新規就農支援事業などを紹介しました。懇談会では、各地域が抱えている課題や要望などについて意見交換。出席者全員が問題を共有しながら、住みよい地域づくりにおけるそれぞれの役割について考えました。

テーマ 道路の側溝

横町町内会 粕谷 光彦 会長



Q 設置して40年経過している側溝も多くあると伺った。水の流れが悪くなっているところもある。対策はあるか。要望はどこに出せばいいか。

A ご指摘のとおり、排水路の問題は経年による機能不全やふたが無くて道路が狭いなど多岐にわたります。市内では、いまだに土側溝の排水路で流末処理の悪い箇所もあります。随時対応していますが整備の進捗が難しい状況です。住宅地内の側溝は住民の皆さんに清掃していただいています。地下排水口部分や人の手では難しい所、住宅の張り付いていない箇所はご連絡いただければできる限り対応します。

また、要望は土木課へ、なるべく個人単位ではなく、町内会単位でしてくださいようお願いいたします。

テーマ 空き家対策

吹原自治会 渋谷 俊浩 会長



Q 管理者不明の空き家が増加する中、防災、衛生、景観の面で悪影響が深刻であるため、より一層、対策を進めてほしい。

A 倒壊のおそれなど周囲に悪影響を及ぼしている空き家については、所有者を特定し、適正に管理するように促しております。空き家等に関しては、個人の資産なので、ご本人または相続された方が管理、費用負担するのが原則です。今後、空き家の解体費用の支援などを検討していきます。



テーマ 出産準備金

下相野自治会 盛 恒博 会長



Q 国では、妊娠している方に10万円を支給する方針だが、市独自でそういった取り組みは行わないのか。

A 本市独自の取り組みとして、現在、中学生までの子ども医療費の無償化、第2子以降の保育料等の助成、学校給食費の軽減、不妊治療費の助成などを行っています。

さらに、子ども医療費の無償化を高校生まで拡充、保育料等の完全無償化、出産祝い金の支給など、子育てにかかるさまざまな経済的負担の軽減策を検討しており、限られた財源の中で、各事業の効果が優先度を勘案しながら取り組んでいきます。

一人一人を大切にした福祉のまちづくりに向け決意



福祉の作文を発表する稲垣小6年生秋元良仁君

第18回つがる市社会福祉大会が開催され、市民や来賓約150人が集まり、一人一人を大切にした福祉のまちづくりに向け決意を新たにしました。

「福祉の作文」発表では、市内小中学校から6人の児童生徒が登壇し、「地域の人のために動いたり、何か考えたりできれば、地域とつながりのある学校になれる」「介護職という仕事をしている母をぼくは尊敬している」「社会は簡単にならないと思うが、少しずつでも発達障害の存在を広めていきたい」などと読み上げました。

式典では、市社会福祉協議会の白戸英行会長が「誰もが住み慣れた地域で安心して生活できる地域づくりに積極的に取り組んでいきます」とあいさつ。続いて、地域福祉の向上などに貢献した個人、団体に対し、白戸会長から表彰状および感謝状が贈られました。

ミャンマーから介護技能実習生が来日

外国人技能実習制度により、ミャンマーから来日し、市内のグループホームで介護技能実習生として働く5人が市役所を表敬訪問しました。

この制度は、外国人の技能実習生に日本の企業等で技能・技術・知識を習得してもらい、母国の経済発展を担う「人づくり」に寄与することを目的としています。

エンプレス協同組合（伝法谷良二理事長）は、介護技能実習生を受け入れる監理団体で、今回初めて実習生を受け入れます。

実習生のYI YI MON（イー・イー・モン）さんは「仕事に早く慣れたい。将来は介護福祉士の資格を取り、日本でずっと働きたい」と抱負を語りました。



介護の仕事にやる気に満ちていた実習生の皆さん（前列）

図書館調べるコンクール 受賞14作品が決定

11/12
市立図書館



表彰状授与式に出席した受賞者の皆さん

市立図書館では、調べることで子どもたちに自ら学ぶ力をつけてもらいたいと、第6回市立図書館を使った調べる学習コンクールの作品を募集。今回は市内の小中学生から過去最多の66作品の応募があり、14点の受賞作品を決定。最優秀賞には、穂波小学校6年の太田ここみさんと伝法谷奈桜さん、柏中学校2年の荒関夏帆さんが選ばれました。

太田さんは「天気予報って当たるの!？」と題して、夏休みの約1カ月間の天気と予報を記録し、当たる確率はおおよそ77%と結論付け、「調べてみて当たる確率が高かった」と振り返りました。伝法谷さんは「夢見る夢研究」と題して、レム・ノンレム睡眠や金縛りの解説をはじめ、自身の15日間の夢日記などを紹介。「脳の名前などを分かりやすくイラストで解説しているところを特に見てほしい」と話しました。

太田さんと伝法谷さんの作品は、公益財団法人図書館振興財団主催の全国コンクールに推薦されました。受賞作品は市立図書館で2月末ころまで展示していますので、ぜひご覧ください。

他の受賞者は次のとおりです。▽**小学生の部優秀賞** 乳井絢女（穂波小6年）、**優良賞** 福士希歩（向陽小2年）、**奨励賞** 菊池桃李（向陽小2年）石岡汰進（瑞穂小6年）鳴海花（瑞穂小6年）、**特別賞** 高橋芽生（向陽小2年）高橋桜凜（穂波小3年）藤田愛華蝶（森田小3年）野呂歌音（森田小4年）尾野桃星（稲垣小6年）▽**中学生の部優秀賞** 成田柚歌捺（柏中2年）